

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372401069
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会
事業所名	グループホームへたみ家
訪問調査日	平成 21 年 3 月 4 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 14 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4372401069
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会
事業所名	グループホームへたみ家
所在地 (電話番号)	熊本県玉名市天水町部田見1214番地15 (電話) 0968-82-5528
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41番5号 千代田レジデンス106号
訪問調査日	平成21年3月4日

【情報提供票より】(平成21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,200~29,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	156 円	昼食	390 円
	夕食	234 円	おやつ	昼食に含む 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 77 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖ヶ塔病院、玉名中央病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くは有明海を望み、ミカンやイチゴ畑に囲まれ、天水町を見下ろす高台に位置している。室内の天井は高く、採光や換気も良く、優しい色合いのインテリアで、明るく心地よい雰囲気になっている。居室はゆっくりしたトイレと洗面台が整備され、プライバシー確保への気配りがある。美味しい手作りの食事やおやつ、清潔な浴室での毎日の入浴が入所者の健康と、穏やかな暮らしを支えている。「その人らしい生活の応援」を目指し、9人のそれぞれの個性や習慣を大切にされたケアが行われている。家族アンケートは満足・感謝の声が殆どで、入所者や家族の職員への信頼の厚さが伺われた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回①地域密着型サービスとしての理念②家族への報告③プライバシー確保の徹底等が指摘され、次のように改善されている。①法人の理念の共有に加え、ホーム独自の基本方針に「地域社会での生活の援助」を加え、行動指針としている。②家族宛の手紙や職員の異動・行事の写真を載せた新聞を発行し、報告内容の充実を図り改善している。③記録は見守りを兼ねてリビングで行なうが、席を外す時は事務所に片付け、情報管理の徹底を図っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、ケアを振り返る機会と捉えている。前回の指摘事項も、改善計画を立て、職員でブレインストーミングを行なうなど、質の向上に向けて取り組んだことが確認された。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議ではホームの活動内容や入所者の暮らしぶり、入所希望待機者状況の報告等を行い、食材費値上げについての説明等も行なっている。委員からは、地域との関わり方、入所者が利用可能な社会資源の情報やアドバイス等を受けている。今後、夜間緊急避難時を想定し、地域住民による緊急時避難支援体制づくりも必要になるかと思われる、地域代表委員による積極的な支援を期待したい。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>敬老会や餅つき大会など、家族参加行事の後、意見を聞く機会を作っている。また、通常の面会時は居室で入所者の様子を伝えながら、相談しやすく、意見が言いやすい雰囲気作りや関係作りに努力している。外部評価時のアンケートには、苦情や不安等も見られず、良好な関係が見られた。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園児と七夕飾りをしたり、小学校の運動会を見学に行ったり、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域の子供達との交流が行なわれている。町の福祉祭りには匂い袋やアクリルタワシ等、手作り作品を販売して、売上代金を寄付し、町からはカステラのお返しを頂くなど、地域交流の輪が広がっていると思われる。また、ホーム入所者のためのコーナーも用意され、習字や俳句等を展示するなど、地元住民として積極的に参加している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは利用者も職員も誇れるような施設を目指します」という母体法人の理念を共有し、ホーム独自の6つの基本方針の中に、「利用者が地域社会の一員として生活する事を援助する」「本人の意志や人権を尊重し、一人一人にあった生活を提供する」と明記し、地域社会で暮らし続けることを支援する上での行動指針としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と基本方針の実践に向けて、全職員でブレインストーミングを行い、解釈の共有と浸透に取り組んでいる。9人の入居者一人ひとりの個性に合わせ、その人らしい生活の延長を最優先にケアに努めている。入所者の穏やかな表情から、それぞれのペースが護られ、安心して暮らせる生活支援を行い、理念の実践へ取り組む姿が確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児と七夕飾りをしたり、小学校の運動会を見学訪問する他、中学生の職場体験受け入れ時には、職員が認知症の人への接し方を教える等の交流が図られている。町の福祉祭りでは、入居者と職員が一緒に作った匂い袋やアクリルタワシを販売し、売上を町に寄付して町からカステラのお返しを頂くなど、思いやりの地域交流が感じられた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、ケアを振り返る良い機会としている。また、前回の評価結果に基づき、職員ミーティングで改善計画を立て、サービスの質の向上に取り組む対応が確認できた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから活動内容・入所者の暮らしぶり、入所希望待機者の状況等を報告し、委員からは社会資源情報や地域との係わり方等、アドバイスを得ている。アクリルタワシを福祉祭りで販売するきっかけづくりなど、委員からの情報が役立っている。これまで母体法人で行っていた会議を、閉鎖的にならないようにとの委員からのアドバイスで、ホーム内での実施に変更するなど、より実践的で効果的な会議になっている。	○	今後、緊急時を想定した災害時避難支援体制作りが必要であり、地域住民の支援を受けるために委員の積極的な協力とサポートに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な際は、母体法人の支援相談員が行政への窓口として支援する体制ができています。入所者や入所希望者の生活保護申請手続きが必要な場合、市町村と協力し、利用者の支援を行っている。	○	市町村職員にグループホームの実際や認知症についての理解を深めてもらうために、研修会の提案なども交流の一つと考えられる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の様子や身体状況等を手紙で報告し、外出や行事参加の様子と、職員異動等を記載した「へたみ家新聞」を家族へ送り、安心に繋げている。面会が少ない利用者には自宅訪問を行って、家族との関係維持をサポートし、家族からの信頼を得ている様子が伺われた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会や餅つき大会など、家族参加行事の後には、意見を聴く機会を作っている。また、通常の面会時は居室で入所者の様子を伝えながら、気軽に相談できる雰囲気作りが工夫されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「馴染みの関係」というグループホームの特性を大切に、職員の異動は極力抑える努力が行われ、異動や離職があった際は、約1ヶ月の重複期間をとり、スムーズな引継ぎを行なうことで、入所者へのダメージ軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人が行なう施設内研修には出来るだけ多くの職員参加を促し、外部研修には、職員の経験や習熟度に応じた参加を促し、育成を図っている。外部研修への参加後は、報告の機会を設け、全職員で内容を共有し、全体的な質の向上に向けた取り組みがみられた。	○	パート職員の研修も参加の機会を捉え、全体的な質の向上を図るため、研修に参加しやすい環境整備を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県グループホーム連絡協議会や玉名支部会に出席し、職員間の親睦会・料理講習会等の活動に積極的に関わっている。訪問調査日、リビングでGH連絡会主催の「のど自慢大会」のビデオを何度も繰り返し楽しそうに見ている入所者の様子に、管理者や職員だけでなく、利用者同士の交流や楽しみ作りに、ネットワークが活かされていることが確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体法人の相談員と連携して、入所前の情報収集や連絡に努めている。生活歴・性格・好きなこと、やりたいこと欠点と思われるようなことも出来るだけ細かく把握し、本人の意思と、これまでの生活の延長を支えることを大切にしている。最初、名前だけしか言えなかった人が、2週間後に「ここは良か人ばっかし、お金はどうなっているだろうか？」など、気持ちも安定し、言葉も発せられるように改善したケースもあり、職員の工夫と努力が効を奏しており、不安のない生活を支援している様子が見られた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	もやしの根切りやいんげん豆のスジとり、洗濯物タタミと居室への配達など、出来ることを依頼し、支えあう関係が築かれている。昔からのしきたりや文化など、若い職員に馴染みの薄いことを、入所者から学ぶ姿勢で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今は思いを表現出来なくなっているが、一人ひとりの輝いていた時代の話をゆっくり聴き、心地よく過ごしてもらうため、観察や気付きを細かく記録・共有し、ケアに活かしている。逆デイサービスと称し、希望者は自宅に4・5時間帰り、庭の草取りや猫の世話、みかん千切り・近所の人のおしゃべりを楽しむなど、思いを把握した柔軟な支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ICFケアプランに則って、健康・心身機能・活動・社会参加・環境因子等について、本人や家族から情報を得、職員の観察を含めて細かく記載し、職員勉強会で検討し、本人や家族の希望に応じたケアプランが作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は6ヶ月に一度の見直しを行なっているが、状態に変化が生じた場合、ケアの変更を実施。プランを見直し、本人と家族に説明し、同意が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	逆デイサービスでは、自宅を訪問したり、お墓参りに行ったり、馴染みの商店に買い物に出かけたり、訪問看護や定期的な往診を受ける等、利用者の要望やニーズに柔軟に応える支援が行われている。入所者の穏やかな表情に、安心できる環境とストレスの少ない生活の様子が伺えた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続受診は自由であり、家族同行でリハビリに通う入居者も見られたが、ほぼ全員が協力医の定期往診を希望し、受診の負担は少ないようであった。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「へたみ家入居者症状悪化時の対応指針」を作成し、対応しうるケア内容について家族に説明し同意を得ている。2年前から終末期についての勉強会を行っており、職員の看取りへの意識も高まっている。	○	重度化や終末期に向けた方針が作られると、責任範囲が明確化され、職員の不安の軽減・意識向上に効果的だと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いは親しみの中にも失礼のない様に配慮し、一人ひとりのプライドを大切に、心地よいコミュニケーションが行われている。記録はリビングで見守りながら行っているが、席を立つ際は、そのまま放置することなく、事務室に持って行き、情報漏えいに配慮する様子が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴と習慣を大切に、これまでの生活の延長を支えるケアを行なっている。室内ではリラックスした格好で寛ぎたい人、夜食を何よりの楽しみとする人など、これまでの習慣を拒否することなく、出来る限りその人らしい暮らしを支え、ストレスの少ない過ごし方の継続に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	煮しめ・白和え・南蛮漬け・ダゴ焼き等、入所者が好み、昔を懐かしめるようなメニューを中心に、色合い・盛り付けに配慮した手作りのおいしい食事やおやつが提供されている。重度化が進み一緒に調理は難しくなっているものの、懐かしいBGMを流しながらの食事時間に、「この食事は何でうまか」という言葉も聞かれ、利用者の満足度が感じられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ全員が毎日入浴。一番風呂の希望者が多く、チェック表で公平さを保ち、楽しみながらの入浴を支援している。菖蒲湯、柚子湯など季節感も大切にしている。定期的な消毒を行い、衛生的で清潔な入浴支援が行われている。訪問当日の午後には、交替に入浴を楽しんだ後のさっぱりした表情が見られた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたみ、各居室に配達したり、配膳したり、入居者のできることを活かす支援が行われている。文化祭ではボランティアの大正琴を聞いたり、踊りや歌謡ショーを楽しみ、音楽療法では楽器の演奏や懐かしい歌を歌うなど、楽しみや気晴らしの機会を多く作って支援し、入所者の明るい表情が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品は商店街に買い物にでかけ、近隣のミカン畑やイチゴ畑へ散歩したり、帰宅願望のある人へは、自宅までドライブしたり、希望にそった外出支援を実施。ミカンやイチゴの収穫期は、おやつにミカンゼリーを作ったり、イチゴジャムを作る等、自然に恵まれた環境で多様な楽しみ方での支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間の施錠はなく、玄関の出入りはリビングや食堂から見守り、併設のてんすい倶楽部職員の協力も得ている。入所者が外出する際は、すぐに止めることなく、そと見守り、同行し気持ちに寄り添う支援を行なっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、入所者も参加した非難訓練が実施されている。緊急時は火災報知機が隣接する母体法人経営の老人保健施設「てんすい倶楽部」の緊急連絡網につながり、支援を得る体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が書籍等を参考に作り、栄養バランスに関しては、母体法人の管理栄養士にアドバイスを受けている。また、水分は毎食事時と起床時・ティータイム・おやつ時・入浴後など、お茶やコーヒー・水・ゼリー等、好みを聞き、こまめに補給し確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く採光も良く、食堂兼リビングの先にはウッドデッキがあり、開放感がある。和室やベンチコーナーでは気の合う者同士が外の様子を楽しみながら、おしゃべりするスペースになっている。入所者が出演した「のど自慢大会」のビデオを見ながら、お昼ごはんを待っている様子は、家庭的であり、穏やかな優しい時間が流れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた茶碗や湯のみ等の持ち込みを促している。居室はテレビ・カセット・整理ダンス・テーブルと椅子・コートかけ・人形や犬のぬいぐるみ・習字道具・家族写真・プランタンの植物など、思い思いのものに囲まれた心地よい部屋づくりとなっており、支援の手厚さが感じられた。居室にはトイレと洗面台があり、プライバシーも確保されている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム へたみ家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市天水町部田見1214-15
記入者名 (管理者)	淵 充子
記入日	平成 21年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域の集まりやイベントに参加して販売に協力したり、気軽に遊びに来てくださるように広報している。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の際、少しの時間を利用して認知症を理解する為の学習を行ったり、地域の公民館などへ出向き(老人会の集い等)、健康体操や血圧測定等を行い地域貢献に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組み、ケアを振り返る機会となっている。評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて検討し、実践に繋げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動内容、現在取り組んでいる内容を報告し、参加メンバーから質問、意見、アドバイスを受け、それをサービスの向上に活かし、さらに外部評価の検討課題に取り組むことで質の向上確保に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の中に経済的に困窮な方がいる場合等には、市の担当者とともに協議しながら一緒に問題解決を図っている。	○	家族に同行し、市の担当者へ生活保護申請の相談を行い、協議を重ねた結果、生活保護受給開始へとつなげる事ができた。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護制度、成年後見人制度については事業所内での勉強会の他外部研修に参加し、全職員が周知している。退去された利用者の中に対象者がおられ、後見人制度活用となった。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会が中心となり各部署のラウンドチェックを行ったり高齢者虐待防止の勉強会を開催し、全職員の意識付けに努めている。今年度から虐待に関する職員アンケートも実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を十分説明している、特に利用料金やグループホームでのケア、医療連携体制、重度化や看取りの対応など詳しく説明し、同意を得ている。又、利用者の状態変化により退居に至る場合は、家族(必要に応じて本人を交えて)と十分な説明と話し合いの段階、期間を経て相談している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。又利用者の不満、苦情は苦情処理表にて提出することとなっており、スタッフへの内容の伝達、対策等はミーティングの中で検討を行っている。これらは運営者まで報告することとなっており、運営推進会議にて報告する流れとなっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、日頃の暮らしぶりや心身の状況を伝えたり、毎月発送する郵便物の中に文書で報告している。金銭管理を支援している利用者については、用途の確認、金銭出納帳を明示し、その都度報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関カウンターにご意見箱を設置し、自由に意見、不満、苦情を書いて入れて頂くようにして、さらに県の相談窓口の連絡先を掲示している。又家族の面会時には居室へお通しし、利用者の生活状況などを伝えたり言い出し易い雰囲気作りをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われている上司、法人への職員の意見、要望を書面にて提出する機会(自己申告書)を設けている。又自由に提案書を提出するようになっており、職員意見が反映されている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしが出来る限り支えられるよう必要に応じて管理者と職員がよく話し合いながら体制がとれるよう調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員が継続的に対応することが重要であるが、やむを得ず移動や離職が出た場合はその重複期間を充分とりスムーズに移行出来るように配慮している。新人にはマニュアルに基づいて業務指導を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育委員会が設置され、施設内の研修、外部より講師を招き定期的に研修を行っている。施設外研修案内を掲示板に張り出し、各自の立場、経験や習熟度に応じて全ての職員が受講出来るように学びの機会を確保している。研修参加後は全職員が共有できるように研修内容を報告する機会を作っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県グループホーム連絡協議会や玉名市部会には必ず出席し、定期的な勉強会や利用者を交えての行事など、事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	全職員に1回/年ストレスアンケート調査を行い、問題を抱えている職員に対しては、個別対応を行っている。福利厚生委員の企画にて「親睦の場を作る」「気分転換の場を作る」を目的に法人内合同で、バレー大会施行、新人の歓迎会、忘年会など開催している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度(目標と勤務態度評価)を導入しており、職員の努力や成果について把握、半年毎に評価を出し、一部賞与、昇給に繋ぎさせている。年に2回スタッフと運営者、管理者との面接の時間を設けており、要望や悩みを直接聞く機会を作っている。又年2回のアンケートでも要望を出せるようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の相談には主に相談員が対応しているが、必要時には現場のスタッフも本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りや情報収集(生活歴や性格等)に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談する家族の立場に立って何に困っているのか充分話を聴き、受け止めながら関係を築き、次の段階の相談につなげている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人、家族の思い、状況等を確認して必要に応じた支援を提案している。早急な対応が必要な相談者には他の事業所のサービスに繋げるなど柔軟な対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用するために、利用開始前に本人、家族に見学に来て頂いたり、施設で待機されている本人に面会に行ったり関係作りをして利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状況に応じて台所の手伝いや、野菜の収穫と一緒にいき、協働して、共に支えあう場面作りや声かけをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の暮らしや課題が生じた時はその都度、家族の思いを尋ねながら、職員と家族と一緒に本人を支えていくような関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人の日頃の生活の様子を報告、相談したり、来訪時には本人と家族の潤滑油になるよう心掛けて、関係が途切れないようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が長年住み慣れた自宅を訪問したり、馴染みの商店や墓参り等、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	朝の体操の時間やおやつ、食事時には職員も一緒に過ごし、利用者同士の関係がうまくいくように調整役となって支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人の心身状態変化等によりサービス利用が終了した後も必要に応じて、定期的な面会や家族等からの相談に対応できるような関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりがどのように暮らしたいか、意向の把握に努めている、意思疎通の困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が自分らしく暮らしていくことを支援する為に、プライバシーに配慮しながらこれまでの生活歴や暮らし方、個性等を家族、関係者から把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの暮らし方や生活のリズム等（食事や睡眠、排泄、入浴）総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の視点にたつて、その人らしく暮らし続けることを支援する為に本人や家族の意見・要望を聞き、本人をよく知る関係者と話し合い、アセスメントし、ケアマネを中心にして職員全員で介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は設定された期間ごと、又は本人、家族に状態の変化が生じた場合は、本人家族、関係者と話し合い、臨機応変に見直しを行っている。家族への介護計画の説明は、来訪時、訪問にてあるいは郵送（来所困難時等）にて、その家族の状況に応じて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や、本人の言葉、エピソード等気付きや状態の変化を個々のケア記録に記載、情報を共有しケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして1回/月の定期往診、訪問看護を利用して医療処置を受けながらの生活の継続、入院回避、早期退院の支援等、本人家族の状況に応じて柔軟な対応を行っている。又今年1月よりショートステイ受け入れを取得した。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活が楽しめるよう地域ボランティア個人団体に来て頂いている。又同法人施設へは民生委員やボランティアの方々に施設行事等へ関わって頂いている。消防署においては、救急時の指導、非難訓練の指導を行って頂き、学校関係との交流も定期的に行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人の通所や老健と連携し、レクリエーション参加や行事の開催時合同で行っている。又地域老人会の方から情報提供して頂き近くの公園へ花見に行くようになった。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回開催されている運営推進会議に包括支援センターの職員が参加し、意見、情報交換を行っており、協力関係の体制にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院から1回/月定期的に訪問診療に来て頂いている。他に家族協力のもと本人や家族希望のかかりつけ医に受診しているケースもある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの機会に職員の意識向上を図り利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう言動に注意している。今年度は、同法人のスタッフが個人情報保護の研修に参加し、来年度は外部講師を招いて全員で再度学習する予定となっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は利用者とは過ごす中で興味、関心、嗜好等を把握している。それを基にして言葉では十分意思表示出来ない場合でも複数の菓子や飲み物を選んで頂いたり、絵本や雑誌を利用して表情や全身での反応をよみとる努力をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるものの、一人ひとりの体調や気分に対応しながら柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせて、普段着と外出着に分けて敬老会などの行事の際は化粧や好みの服に着替えられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑からの収穫や野菜を職員と一緒にいき、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物(飲み物やおやつ)を日々の生活で把握しており、一人ひとりの好みや意向を大切にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの時間や習慣を把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの状況に応じて昼夜に分け、毎日入って頂いている。職員は利用者が湯に入ることへの抵抗感に配慮して、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の流れの中で活動や出来事、個別の疲れ具合に合わせて休息を取り入れ、夕食後は穏やかな時間の過ごし方で安眠できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、台所仕事や洗濯物の整理などお願い出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。又遠出の外出や地域の行事参加の楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力や希望に応じ家族の協力を得ながら少額の金銭を手元に持っていていただく。又は家族の希望により事業所が預かり、外出時や必要に応じて使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間を通して四季折々の場所へ外出し、季節を肌で感じてもらったり、天気、本人の気分により心身の活性につながるよう日常的に散歩、買物あるいはドライブに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	より個別的には家族と相談しながら墓参りや、自宅へ訪問し、庭の手入れや居間でのひと時を過ごし懐かしい思い出話を共有し、個性の高い支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から来る手紙や電話はプライバシーに配慮しながら歓迎し、一人ひとりの有する力や希望に応じて電話したり、年賀状、暑中見舞いを出すための支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人達の訪問時には笑顔で迎え、湯茶の用意、居室でゆっくり過ごして頂いている。訪問時間は制限せず都合の良い時間帯に、いつでも尋ねて来て頂けるような配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会を中心に身体拘束に関する勉強会を2回/年定期的に行い全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又積極的に研修会に参加し、その後伝達講習にて全体へ浸透させる試みを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、見守りや連携を徹底し、外出しそうな様子を察知したら一緒に付き添う等安全面を配慮して日中鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている、夜間は2時間毎に利用者の様子を確認しながら異常時にはすぐ対応出来る居場所を工夫して24時間利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの状態により危険な物品を把握し、利用者が使う時に注意するもの、保管管理が必要な物、厳重管理する物に分けて危険防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる、事故には至らないまでも、職員からのヒヤリハット報告書や危険への気付きを収集し、事故防止に努めている。万一事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。事故に関する取りまとめは、リスクマネジメント委員会が行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の対応について、年3回定期的に勉強会を行い、全職員は周知している、夜間帯の人手の少ない時の連絡、マニュアルを作成し周知徹底を図っている。H21年度は消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の講習会を実施する予定となっている。	○	訓練は受けているが、いざという時は不安、という職員の声がかかるので、訓練や意識付けを繰り返す必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、2回/年定期的に利用者と共に火災時の避難訓練を行っている。	○	地域住民の協力については運営推進会議の席で呼びかけを行う、又非常用食料、備品についても検討する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの状態の変化により起こりうるリスクについて家族へ説明し、事業所の工夫や取り組みを示し、家族の納得の上リスクは高くなるが自由な暮らしの大切さを説明し、理解を得られるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は一人ひとりの持っている病気や普段の状況を把握しており、少しでも食欲や表情、活動の変化が見られた時はバイタルチェックを行い管理者に報告するとともに職員間で共有し、対応に当たっている。状況により医療機関につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が内容(薬名、目的、用法、用量、副作用)を把握出来るように一人ひとりの早見シートを作成し、いつでもすぐ確認できるようにしている。薬の用量や増減、状態の変化がみられるときは、詳細な記録をとるようにし、看護師、医療機関との連携を図れるようにしている。服薬介助時には、本人に手渡し、きちんと服用できたか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防対策として、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、水分を多く取り、身体を動かす機会を適度にうけて自然排便できるよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を研修により全職員は理解し、毎食後一人ひとりの能力に応じて見守りや介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューを作成し、隣接する同法人施設(老健)の管理栄養士に点検してもらい、おおまかに栄養摂取量を把握しており、専門的アドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、感染防止委員会を中心にして学習を行い委員会の規定や、マニュアルを基本にして全職員が予防に努めている。利用者、家族に同意を頂き、入居者・職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎日漂白し、清潔を心がけている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行い、残ってしまった食材が古くならず無駄なく使用できるような工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は明るく、入口には温かみのある木製の看板、周囲には小さな花壇があり家庭らしさが感じられるよう工夫している。玄関は安全のためスロープ形式となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自然と集まってくる台所、食堂にはベランダから入ってくる朝日や、調理する音や匂いなど5感刺激への配慮とテレビ、ソファを置きくつろぎの場となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には談話コーナー、和室などにテーブルを置き一人で過ごしたり、利用者同士で過ごしたり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品、好みや馴染みの物を部屋に持ち込まれ、利用者の居心地が良くなるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気の必要性を全職員が理解し、臭いだけでなく感染防止の為に午前、午後と2回換気を行っている。又湿・温度計を掛け、数値により小まめに調整している。居室では個々に応じた対応もしているが、可能な限り自然に近いように心がけている。湿度対策としてはぬれタオルを掛けたり、洗面台に水を張ったり、臭い対策では炭や消臭剤を必要な所に置いている。	○	冷暖房に頼りすぎず利用者一人ひとりの状態に応じて小まめに調節している。換気扇・冷暖房機の掃除を定期的に行い機能低下を防いでいる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで廊下には手すりがつき車椅子・歩行器も自由に移動できる。トイレ・浴室も手すりを設置している。玄関での靴の脱ぎ履きしやすいように長椅子を取り付けるなど安全に生活出来るように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりが間違えたり、混乱したり不安材料に気付いた時は職員で共有し、その都度改善して、力を取り戻せるよう試みている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ前に小さい花壇を作り、花や野菜を植えて利用者や水やりや、デッキから成長ぶりを眺めている。又ホーム前から少し離れた所へ洗濯物干しをおこなったり、施設周囲を散歩に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人々が自分の意思で生活できるように関わっている。